

保育者のケアリング測定尺度の開発過程に 関する批判的論評

井上 祐子¹⁾・高橋 順一²⁾・中嶋 和夫³⁾・黒木 保博⁴⁾

抄録

本研究は、保育者のケアリング測定尺度の開発に関する国内外の研究論文を対象に、特に統計学的な視座から、批判的な論評を行うことを目的とした。研究論文の収集には、「CiNii」と「ERIC」を利用した。最終的に3種類のケアリング測定尺度を、尺度開発における内容的妥当性と構成概念妥当性の検討において、適切な統計学的手法が適用されているか否かを吟味した。その結果、統計学的に適切な解析方法を用いて開発されたケアリング測定尺度は見いだせなかった。以上の結果は、保育者を対象とした、「幼児教育において育みたい資質・能力」の文脈を重視した保育者によるケアリング測定尺度の開発の必要性を示唆するものである。

キーワード：保育者、ケアリング、測定尺度、批判的論評、妥当性

目次

I. 序論

II. 本論

II-1. 分析に必要な研究論文の概要

II-2. ケアリングに関連する測定尺度の概要

II-3. ケアリングに関する測定尺度の内容的妥当性と構成概念妥当性の検討

III. 結論

1) 鹿児島純心女子大学国際人間学部こども学科

2) 同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士後期課程

3) 岡山県立大学名誉教授

4) 同志社大学社会学部教授

I. 序論

経済協力開発機構（OECD）をはじめとする国際機関が、幼児教育や保育を表現する際、「Early Child-hood Education and Care」（ECEC）と表記していることから明らかなように（OECD 2018）、子ども達の教育とケア（保育）は切り離せるものではない。我が国においても、子ども・子育て支援新制度は、幼児期における質の高い学校教育・保育提供を目的に、保育の仕事に教育機能を含む方向性を示している。また、保育所は児童福祉施設のひとつではあるが、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領との3法令において、3歳以上児の保育に関するねらいと内容において整合性が図られ、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」といった保幼小接続を意識した幼児教育を新たに担うことが求められている。さらに、保育所保育指針第1章総則2養護に関する基本的事項（1）養護の理念¹⁾、学校教育法第3章幼稚園第22条²⁾、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章総則第2教育と保育の内容に関する全体的な計画の作成³⁾においても、教育と保育の関わりが明記されている。

このように海外や国内においても、国際機関や制度、法令において、教育と保育の関わりが明記され、重視されているが、幼児教育は、保育内容5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を中心に行われており、教科を中心とする小学校以上の教育と異なっていることから、幼児教育と小学校教育との接続には難しさがある。本研究では、教育と保育の関わりが重視されながらも、幼児教育と小学校教育との接続に難しさがあることを考慮し、保幼小接続につながる保育実践を整理することに意義があると考え、保育者が子ども達に行うケアリングに着目した。

メイヤロフの著書“On Caring”において初めて使用されたCaring（以下、ケアリング）という用語は、看護学、教育学、哲学等に幅広く影響を与えている（西田 2015:36）。メイヤロフは、ケアを「他者の成長をたすけること」と考え（田村・向野 1987:92）、「ケアには、その相手が、自ら適したときに、適した方法で成長していくのを信頼（Trust）することが含まれる」と指摘して

いる（田村・向野 1987：50）。このメイヤロフのケアに関する言及は、子どもの発達に必要な経験を得られるよう、環境を構成し、援助を行うといった保育者による子ども達への発達支援にもつながるものである。そこで、本研究では、保育者によるケアリングについて、メイヤロフの「他者の成長をたすけること」（田村・向野 1987）という考えを援用し、「保育者のケアリングとは、子ども達の発達に必要な経験を得られるよう援助を行うこと」と操作的に定義する。

これまでケアリングについて、保育分野においても、幼稚園・保育所に勤務する保育者におけるケアリング行動に関するアンケート調査を分析した研究（中野 2001）、保育における人とかかわりとケア概念の関係について検討した研究（小林 2009）、幼稚園教育要領と保育所保育指針の「人間関係」領域において見出すことのできるケアリング教育の内容項目を検討した研究（中野 2009）、ノディングスのケアリング論におけるケアする人のあり方や受容性の概念を検討した研究（田代 2014；吉國 2015）等がなされている。しかし、保育者を対象とするケアリングに関する測定尺度を用いた研究はほとんど見当たらない。一方、海外では、ペンシルベニアの育児サービス提供者の訓練ニーズを特定するとともに、訓練の影響や育児施設におけるケアの質に関するその他の要因を評価した研究（Iutovich, et al. 1997）があり、そこでは Early Childhood Rating Scale（ECERS：幼児環境評価尺度）、Infant/Toddler Environment Rating Scale（ITERS：乳幼児の環境評価尺度）、Family Day Care Rating Scale（FDCRS：家族のデイケア評価尺度）が使用されている。ECERS、ITERS、FDCRS は、いずれも保育サービス提供者によるケアの質を評価するための尺度であり、訓練された専門の評価者の観察によって評価される。今後、訓練された専門の評価者の観察による評価尺度の活用とともに、保育者が自己点検・評価できるよう、ケアリングの構成概念を検討して尺度開発に取り組み、研究成果を蓄積する必要がある。そのためにケアリングに関する数量化が可能な尺度の開発が重要な研究として位置づけられるが、ケアリングという現象の測定尺度が備えていなければならない条件は妥当性（内容的妥当性や構成概念妥当性等）と信頼性である。

そこで本研究では、保育者によるケアリング測定尺度の開発に資する指針を得ることをねらいとして、ケアリング測定尺度を用いた国内、海外の研究論文について統計学的な視点から批判的論評を行うことを目的とした。

研究論文の収集において、国内文献の検索には「CiNii」(NII 学術情報ナビゲータ [サイニィ]) を用い、検索キーワードは「幼児教育 AND 保育 AND ケアリング AND 尺度」「幼児教育 AND ケアリング AND 尺度」「保育 AND ケアリング AND 尺度」「幼稚園 AND ケアリング AND 尺度」「保育所 AND ケアリング AND 尺度」「ケアリング AND 尺度」とした。

海外文献の検索には「ERIC」(Education Resources Information Center) を用い、検索キーワードは「Early Child-hood Education AND Care AND caring AND research, scale, index」「Early Child-hood Education AND caring AND research, scale, index」「Child Care AND caring AND research, scale, index」「caring AND research, scale, index」「preschool AND caring AND research, scale, index」「nursery center AND caring AND research, scale, index」「day care center AND caring AND research, scale, index」「day nursery AND caring AND research, scale, index」とした。

抽出された文献について、以下の①～④の選定基準に従い、対象文献を選定した。その選定基準は、①重複している文献は削除すること、②出典不明の文献は削除すること、③実証的に検討していること、④ケアリングを測定するための尺度が使用されていること、である。なお、「③実証的に検討していること」という選定基準を設け、定性的研究（質的研究や事例研究、文献研究等）を除いた理由は、質的研究や事例研究、文献研究等においては、数量化された測定尺度が用いられていないためである。

以上の基準で選定した研究論文に対し、尺度開発における内容的妥当性と構成概念妥当性の検討方法の観点から、それぞれに適切な統計学的手法がなされているか否かを検討した。内容的妥当性は、①探索的因子分析が最尤法もしくは最小二乗法を用いてなされているか（豊田 2000）、②因子抽出における回

転法は直交回転ではなく因子間に相関を認める斜交回転であるか（豊田 1998）を評価基準とした。構成概念妥当性では、③構造方程式モデリング（Structural Equation Modeling）を用いて確認的因子分析がなされているか（豊田 1998）を評価基準とした（高橋・黒木・中嶋 2014; 孟 2015; 山本・西村・山口・出井・中嶋 2017; 西村・出井・中嶋・山口 2017）。

なお、倫理的配慮として、「日本社会福祉学会 研究倫理指針 第2 指針 内容 A 引用」に基づき、先行業績の検討に際しては、現著者名・文献・出版社・出版年・引用箇所を明示し、自説と他説との峻別を行った。

II. 本論

II-1. 分析に必要な研究論文の概要

国内の研究論文の検索には「CiNii」を用い、次のキーワードで検索を実施した。その検索結果は、「幼児教育 AND 保育 AND ケアリング AND 尺度」では0件、「幼児教育 AND ケアリング AND 尺度」では0件、「保育 AND ケアリング AND 尺度」では1件、「幼稚園 AND ケアリング AND 尺度」では0件、「保育所 AND ケアリング AND 尺度」では0件、「ケアリング AND 尺度」では16件であり、合計17件であった。海外の研究論文の検索には「ERIC」を用いた。検索結果は、「Early Childhood Education AND Care AND caring AND research, scale, index」では0件、「Early Childhood Education AND caring AND research, scale, index」では0件、「Child Care AND caring AND research, scale, index」では1件、「caring AND research, scale, index」では1件、「preschool AND caring AND research, scale, index」では0件、「nursery center AND caring AND research, scale, index」では0件、「day care center AND caring AND research, scale, index」では1件、「day nursery AND caring AND research, scale, index」では0件で、合計3件が抽出された。上記より、国内外の研究論文を「CiNii」「ERIC」を用いて検索した結果、20件が抽出された。

それら20件に対し、上記の①～④の選定基準に従い、さらに分析対象（文

献)の選定を試みた。20編のうち、重複している文献3件、出典不明1件、共感に関する測定尺度を用いた研究論文3件(藤本2001;大道・松浦・大野ほか2005;荒井・大道・嘉山ほか2007)、QOLに関する測定尺度を用いた研究論文1件(伊藤・渡辺・岩田ほか2007)、社会的自己効力感に関する測定尺度を用いた研究論文1件(鎌野2007)、共有経験に関する測定尺度を用いた研究論文1件(山本2009)、連携に関する測定尺度を用いた研究論文1件(福井2015)、ストレスに関する測定尺度を用いた研究論文1件(赤羽2016)、倫理に関する測定尺度を用いた研究論文1件(大西・北岡・中原2016)、well-beingに関する測定尺度を用いた研究論文1件(Mahmoud, et al.2015)、ソーシャル・キャピタルに関する測定尺度を用いた研究論文1件(小林2017)、被援助志向性に関する測定尺度を用いた研究論文1件(安藤・高橋・小池2017)、ケイパビリティに関する測定尺度を用いた研究論文1件(長澤2017)を除いた。その結果、ケアリングを測定するための尺度が使用されている研究論文として、3件を分析対象とした(図1)。

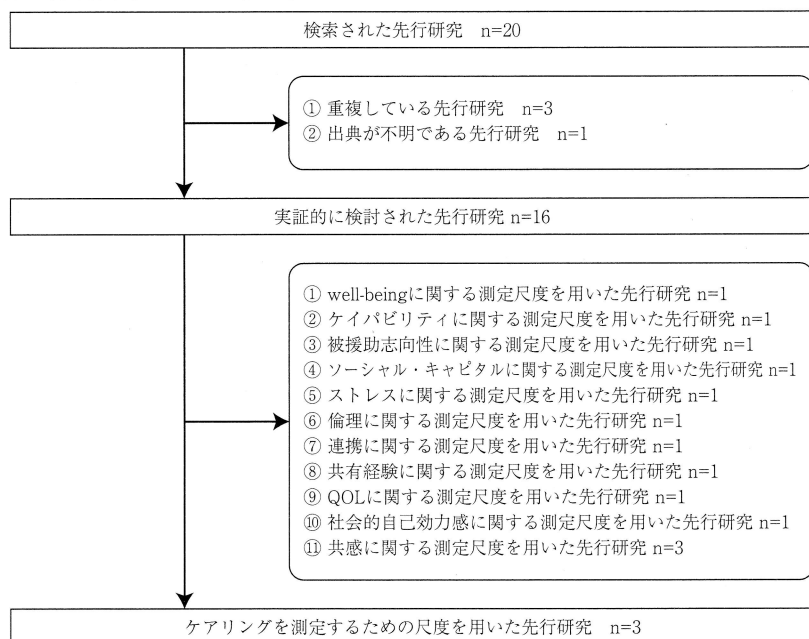


図1 分析に必要な研究論文の選定の流れ

3 件の研究論文は、すべて看護師・看護者を対象としたものであった。分析対象とした 3 件の研究論文において使用されているケアリング測定尺度は 3 種類あり、①犬童（2000）によるケアリング評価尺度を用いている研究論文は 1 件（犬童 2000）、②重久・渡辺・兵頭（2007）によるケアリング行動測定尺度を用いている研究論文は 1 件（重久 2011）、③加藤・谷岡・安原他（2017）によるケアリングとしての技術力の認識尺度を用いている研究論文は 1 件（加藤・谷岡・安原他 2017）であった（表 1）。

表 1 ケアリング測定尺度を用いた研究論文

	筆者	タイトル	対象者	使用した尺度	概要
1	犬童 (2000)	癌看護に携わる看護者のケアリングに関する研究	看護師 n=500	ケアリング評価尺度 (犬童 2000)	癌看護に携わる看護者のケアリングに対する自己評価のレベルとそれを規定する要因を明らかにした。
2	重久 (2011)	がん看護に携わる看護師のケアリング行動を促進する要因の探索－ケアリング行動 7 因子と関連要因の下位尺度の分析より	看護師 n=428	ケアリング行動測定尺度 (重久・渡辺・兵頭 2007)	癌看護に携わる看護師のケアリング行動（対象を大切な存在として認識し、その人の能力を最大限生かせる関わり）を促進する要因を明らかにした。
3	加藤・ 谷岡・ 安原 他 (2017)	看護におけるケアリングとしての技術力の認識尺度の開発	看護師 n=426	ケアリングとしての技術力の認識尺度 (加藤・谷岡・安原 他 2017)	集中治療室（以下 ICU）に勤務する看護師の看護におけるケアリングとしての技術力の認識を測定する尺度を開発した。

II－2. ケアリングに関連する測定尺度の概要

前述した①～③の尺度の概要は以下のとおりである。

①ケアリング評価尺度（犬童 2000）

ケアリング評価尺度（犬童 2000）は、研究論文（筒井 1993）を参照して作成されている。測定尺度は安心感や患者と共に存在するなどを含む 6 項目（表 2）で構成され、「はっきり思う：4 点」「かなり思う：3 点」「いくらか思う：2 点」「全く思わない：1 点」までの 4 段階評定で各項目が 1 ～ 3 点で数量化される尺度となっている。

表 2 ケアリング評価尺度 (犬童 2000)

番号	看護者のケアリングに対する自己評価
1	患者の気持ちや希望は何かについて積極的な関心をもっている人
2	家族の気持ちや不安に気遣いを示してくれている人
3	生じている問題に、方向性や希望を与えてくれる人
4	話したい時は時間と場所を設けゆっくり話を聞いてくれる人
5	患者が望む時は予後や死について、いつでも話せる人
6	衰弱していたり、不安な時はいつでもそばにいてくれる人

②ケアリング行動測定尺度 (重久・渡辺・兵頭 2007)

ケアリング行動測定尺度 (重久・渡辺・兵頭 2007) は、チーム医療の中で看護師が果たす役割と責任の遂行 16 項目、患者が主体的に療養できるための情報の提供 6 項目、患者中心の支援 5 項目、安心して療養できる環境の調整 5 項目、患者や家族の状態を予測した支援 4 項目、人間性豊かな関わり 3 項目、意思の疎通 2 項目、合計 41 項目 (表 3) で構成され、各項目が「ほとんど実践している: 5 点」「実践していることが多い: 4 点」「ときどき実践している: 3 点」「実践していないことが多い: 2 点」「ほとんど実践していない: 1 点」の 5 段階で評定される形式となっている。

表 3 ケアリング行動測定尺度 (重久・渡辺・兵頭 2007)

番号	質問項目
チーム医療の中で看護師が果たす役割と責任の遂行	
1	安全・安楽・患者の自立を考慮した身体的ケアを行う
2	心身の痛みや苦痛に適切に対処する
3	常に患者を尊重して関わる
4	安全に注射を行う方法や吸引器などの医療器具の取り扱い方を理解している
5	穏やかである
6	よりよいケアが提供できるような関係づくりや組織づくりに努めている
7	患者を 1 人の人間として知る努力をする

8	その患者のケアについて、主治医や他の医療者が理解できるように説明する
9	患者の家族や重要他者の求めに対して協力的である
10	患者が病気や療養に対して感じていることを表出できるように支援する
11	患者にとって医師が必要な時期を判断する
12	患者と共にいるときには、その患者に意識を傾ける
13	患者のニーズの把握に努め、敏感に対応する
14	診察、治療、検査などの予約時間や決められた入浴時間などにやむを得ず都合がつかない場合は、時間の調整や他の方法を考慮する
15	入院初期や治療開始および告知のときなどは、患者の不安や苦痛が大きいことを予測し、とくに注意をはらう
16	危機、あるいは危険な段階が過ぎても、常に患者に関心を持ち続ける
患者が主体的に療養できるための情報の提供	
1	自分の病気と治療について何を知っておくことが大切か、わかりやすい言葉で患者に説明する
2	患者に必要なと思われる情報を与えることにより、患者が主体であることを認識でき、無力を感じないように支援する
3	同じような病気をもつ人たちが集まる患者会などのサポートシステムで、利用可能なものについて情報を提供する
4	患者がセルフケアできるように支援する
5	患者がいつでも医師に質問できるよう支援する
6	患者の状態や治療に関してよい面を見出し、患者を励ます
患者中心の支援	
1	患者自身が自分の病気や治療についての考えを明確にできるよう支援する
2	患者が治療方針や治療計画について納得しているか、患者にその意思を確認する
3	常に患者を中心に考えて行動する
4	ケアプランや療養の仕方について、患者の意見を取り入れる
5	患者が現実的な目標を設定できるよう支援する
安心して療養できる環境の調整	
1	患者をたびたび見回る
2	ナースコールには迅速に対応する

3	時間どおりに患者の治療や与薬を行う
4	何か問題があればすぐに知らせるように促す
5	患者にとって安全で快適な環境を整える（たとえば、プライバシーの保護、足音やワゴンなどの音、体位変換時のナースコール・時計・ティッシュの位置など）
患者や家族の状態を予測した支援	
1	患者が治療や検査、面会入などへの対応を負担に感じているときには調整する
2	患者や家族の動揺が強いときは、患者や家族と話し合える機会をつくる
3	患者にとって、夜は不安や苦痛の増強する時間帯であることを認識している
4	患者の家族や重要他者がケアに参加できるように関わる
人間性豊かな関わり	
1	患者の話を聴くときには、意識して座るようにする
2	患者が慰めや励ましを求めていることを察知したときは、手を握ったり、背部をさすったりして患者に触れる
3	朗らかである
意思の疎通	
1	患者とコミュニケーションをとるように心がける
2	患者の話に耳を傾ける

③ケアリングとしての技術力の認識尺度（加藤・谷岡・安原他 2017）

ケアリングとしての技術力の認識尺度（加藤・谷岡・安原他 2017）は、最善のケアを提供するための看護師の研鑽7項目、経験科学的な知識と全人的な理解6項目、テクノロジーから得られた情報の活用と絶え間ない理解3項目、かけがえのない人への意図的かつ倫理的な関わり4項目、合計20項目（表4）で構成され、「非常にそう思う：5点」「ややそう思う：4点」「どちらとも言えない：3点」「ややそう思わない：2点」「全くそう思わない：1点」の5段階で評定される形式の尺度となっている。

表 4 ケアリングとしての技術力の認識尺度（加藤・谷岡・安原他 2017）

番号	質問項目
最善のケアを提供するための看護師の研鑽	
1	看護師は、患者にとって最善のケアを提供するべきである。
2	看護師は、ケアの過程を振り返りながら、より良いケアを検討し続けるべきである。
3	看護師は、看護を通じて、自分自身も成長するべきである。
4	看護師は、患者の希望を実現するために援助するべきである。
5	看護師は、患者に信頼してもらうように行動するべきである。
6	看護師は、患者への看護の体験から学んだことを、同僚や看護学生に伝えて共有すべきである。
7	看護師は、臨機応変にケアをするべきである。
経験科学的な知識と全人的な理解	
1	看護には、解剖・生理学の知識が必要である。
2	看護には、臨床薬理学の知識が必要である。
3	看護には、自部署にある最新の医療機器の知識が必要である。
4	看護師は、患者を全人的に理解するべきである。
5	看護師は、患者をかけがえのない一人として、尊重するべきである。
6	看護師は、患者が今、経験していることに共感するべきである。
テクノロジーから得られた情報の活用と絶え間ない理解	
1	看護師は、テクノロジーから得られた情報をもとに、患者の状態を継続的に理解するべきである。
2	看護師は、テクノロジーから得られた情報をもとに、患者の現在の状態をアセスメントするべきである。
3	看護師は、効果的にチーム医療を行うために、テクノロジーから得られた情報を共有するべきである。
かけがえのない人への意図的かつ倫理的な関わり	
1	看護師が、意識のない患者に対し、その人が回復するように、意図的に声かけをするのは効果がない。
2	看護師が、患者の身体に触れて勇気づけることは重要ではない。
3	身体的な機能を失った場合、その患者の、人としての価値は下がる。
4	看護師は、意識のない患者のプライバシーに配慮する必要はない。

Ⅱ－３．ケアリングに関連する測定尺度の内容的妥当性と構成概念妥当性の検討

上記の検討に従い、批判的論評を行う測定尺度は、①ケアリング評価尺度（犬童 2000）、②ケアリング行動測定尺度（重久・渡辺・兵頭 2007）、③ケアリングとしての技術力の認識尺度（加藤・谷岡・安原他 2017）の 3 種類とした。

(1) 内容的妥当性について

内容的妥当性の検討のために探索的因子分析がなされていたのは、②ケアリング行動測定尺度（重久・渡辺・兵頭 2007）と③ケアリングとしての技術力の認識尺度（加藤・谷岡・安原他 2017）であった。これらの尺度では、探索的因子分析の過程において、因子抽出法に最尤法もしくは最小二乗法が採用されておらず、主因子法によるものであった。また、因子抽出における因子軸の回転法に直交回転（バリマックス回転）が採用されていた。なお、①ケアリング評価尺度（犬童 2000）は、主成分分析がなされていた。

(2) 構成概念妥当性について

上記 3 種類の測定尺度のうち、確認的因子分析により検討されていた尺度はなかった。

以上、3 種類のケアリング測定尺度に関する妥当性を内容的妥当性と構成概念妥当性に着目し、統計学的な側面から分析した結果は表 5 に示した通りである。

表 5 ケアリング測定尺度の内容的妥当性と構成概念妥当性

	ケアリング測定尺度	内容的妥当性			構成概念妥当性	
		探索的因子分析			確認的因子分析	
		分析の実施	最尤法 または 最小二乗法	斜交回転	分析の実施	適合度
1	ケアリング評価尺度 (犬童 2000)	× 主成分分析	×	×	×	×
2	ケアリング行動測定尺度 (重久・渡辺・兵頭 2007)	○ 因子分析	× 主因子法	× バリマックス 回転	×	×
3	ケアリングとしての技術 力の認識尺度(加藤・谷岡・ 安原他 2017)	○因子分析	×主因子法	×バリマックス 回転	×	×

Ⅲ. 結論

本研究では、ケアリング測定尺度の開発に資する指針を得ることをねらいとして、ケアリング測定尺度を用いた国内、海外の研究論文について統計学的な視点から批判的論評を行うことを目的に行った。

分析対象とした研究論文は3件であり、すべて看護師・看護者を対象としたものであった。収集した研究論文において、数量化をねらいとして開発されたケアリング測定尺度は、①ケアリング評価尺度（犬童 2000）、②ケアリング行動測定尺度（重久・渡辺・兵頭 2007）、③ケアリングとしての技術力の認識尺度（加藤・谷岡・安原他 2017）の3種類であった。

それら3種類の尺度のうち、内容的妥当性と構成概念妥当性を十分に備えているとみなされた尺度はなかった。本研究が採用した統計的評価基準が尺度の妥当性を評価するすべての方法ではないが、内容的妥当性と構成概念妥当性が確認されたケアリング測定尺度がないことが明らかになった。

幼児教育と小学校教育との接続にある難しさに対して、今回の教育要領の改訂では、保幼小接続を目指し、「幼児教育において育みたい資質・能力」として、「知識と技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」が示されている⁴⁾（厚生労働省 2016）。今後、保育者が、保幼小接続を意識した幼児教育を求められる中、保育者が自己点検・評価できるよう、「幼児教育において育みたい資質・能力」の文脈を重視した保育者によるケアリング測定尺度の開発が急務であると考えられる。適切な統計手法を用いて尺度が開発されるならば、保育者によるケアリングを維持、向上のための有効な機能を提供するとともに、保育の質の向上につながり、子どもの最善の利益の尊重の一助にもつながると考えられよう。

注

- 1) 「保育所における保育は、養護と教育を一体的に行うことをその特性とするものである。」と明記されている（厚生労働省 2017）。
- 2) 「幼稚園は、義務教育とその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保

育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。」と明記されている（文部科学省 2007）。

- 3) 「各幼保連携型認定こども園においては、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）、児童福祉法（昭和 22 年法律第 164 号）と認定こども園法その他の法令並びにこの幼保連携型認定こども園教育・保育要領の示すところに従い、教育と保育を一体的に提供するため、創意工夫を生かし、園児の心身の発達と幼保連携型認定こども園、家庭と地域の実態に即応した適切な教育と保育の内容に関する全体的な計画を作成するものとする。」と明記されている（内閣府 2014）。
- 4) この 3 つの柱について、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ（第 2 部）（幼児教育、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、学校段階間の接続）」（文部科学省 2016:70）では、幼児期の特性から、教科指導で育むのではないこと、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で育むこと、と明記されている。

文献

- OECD (2018) Early Childhood Education and Care - Home
 (<http://www.oecd.org/education/school/earlychildhoodeducationandcare.htm>, 2018.8.25)
- 西田絵美 (2015) 「メイヤロフのケアリング論の構造と本質」『佛教大学大学院紀要・教育学研究科篇』 43, 35-51.
- Milton Mayeroff. (1971) On Caring. Harper Collins Publishers. (= 1987, 田村真・向野宣之訳『ケアの本質—生きることの意味』 ゆみる出版.)
- 中野啓明 (2001) 「保育者によるケアリング行動の分析」『新潟青陵女子短期大学研究報告』 31, 49-70.
- 小林浩之 (2009) 「保育におけるケア概念の検討—養護と教育の一体性に着目して」『教育実践総合センター研究紀要』 18, 141-149.
- 中野啓明 (2009) 「『人間関係』領域におけるケアリング」『新潟青陵学会誌』 1

(1), 19-29.

田代和美 (2014) 「ネル・ノディングズのケアリングにおけるケアする人について: ケアする人としての保育者を養成するための手がかりを求めて」『大妻女子大学家政系研究紀要』 50, 49-58.

吉國陽一 (2015) 「ノディングズのケアリング論から保育実践への認識論的、倫理的示唆: 受容性の概念に着目して」『田園調布学園大学紀要』 10, 221-234.

Ittcovich, Joyce; Fiene, Richard; Johnson, James; Koppel, Ross, and Langan, Francine (1997) Investing in Our Children's Future: The Path to Quality Child Care through the Pennsylvania Child Care/Early Childhood Development Training System., *Keystone Univ. Research Corp., Erie, PA.*

豊田秀樹 (2000) 『共分散構造分析 [応用編] - 構造方程式モデリング -』 朝倉書店.

豊田秀樹 (1998) 『共分散構造分析 [入門編] - 構造方程式モデリング -』 朝倉書店.

高橋順一・黒木保博・中嶋和夫 (2014) 「社会福祉領域で使用されている QOL 測定尺度に関する批判的論評」『評論・社会科学』 111, 113-124.

孟浚鎬 (2015) 「高齢者の自殺念慮測定尺度に関する批判的論評」『評論・社会科学』 115, 27-41.

山本智恵子・西村夏代・山口三重子・出井涼介・中嶋和夫 (2017) 「看護職者の共感に関連したストレス測定尺度に関する批判的論評」『新見公立大学紀要』 38, 57-64.

西村夏代・出井涼介・中嶋和夫・山口三重子 (2017) 「看護師のワーク・モチベーション測定尺度に関する批判的論評」『ヒューマンケア研究学会誌』 8 (2), 1-7.

藤本真記子 (2001) 「患者・看護婦関係における共感プロセスとその影響因子」『青森県立保健大学紀要』 2 (1), 119-132.

大道礼子・松浦真理子・大野洋子他 (2005) 「多次元共感測定尺度を用いたケアリングに関する研究 (第 1 報) 入学直後の看護学生の人間関係の側面 (共

- 感)』『三育学院短期大学紀要』34, 44-53.
- 荒井晴美・大道礼子・嘉山悦代他(2007)「多次元共感測定尺度を用いたケアリングに関する研究(第2報)人間関係の側面(共感)の経時的変化とケアリングに影響を与える要因」『三育学院短期大学紀要』37, 43-60.
- 伊藤景一・渡辺弘美・岩田誠他(2007)「2年間の追跡調査に基づくADLの変化、症状および自覚的健康感が在宅神経疾患患者の健康関連QOLに及ぼす影響」『東京女子医科大学雑誌』77(9/10), 507-515.
- 鎌野育代(2007)「ケアリング教育から捉え直した保育学習の検討」『日本家庭教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集』50,19.
- 福井小紀子(2015)「福祉の現場から 地域終末期ケアを支える医療と介護の連携評価尺度の開発と職種別の特徴:顔の見える関係力、連携意識力、連携行動力の3つのレベルに分けて」『地域ケアリング』17(10), 93-97.
- 赤羽克子(2016)「福祉の現場から 介護職員とストレス:ストレス尺度を用いた分析」『地域ケアリング』18(8), 49-51.
- 大西香代子・北岡和代・中原純(2016)「精神科看護者の倫理的感受性と看護実践における倫理的悩みの関連」『日本精神保健看護学会誌』25(1), 12-18.
- Mahmoud, Sahar; Elaziz, and Nahla Ahmed Abd (2015) Effect of Psycho-Educational Training Program for Parent's Having Child with Leukemia on Their Experience and Psychological Wellbeing, *International Journal for the Scholarship of Teaching and Learning*, 6(12), 13-29.
- 小林和成(2017)「福祉の現場から ソーシャル・キャピタルを活用した男性高齢者向けの介護予防教具・評価尺度の開発」『地域ケアリング』19(10), 72-75.
- 安藤孝敏・高橋知也・小池高史(2017)「福祉の現場から 高齢者の被援助志向性:援助を求めること・受けることに対する認知的枠組みを把握する尺度の作成」『地域ケアリング』19(12), 47-49.
- 長澤紀美子(2017)「福祉の現場から『ケイパビリティ』概念に基づくケアのアウトカム評価尺度とは:イギリスの例を参考に」『地域ケアリング』19(12), 72-78.

- 犬童幹子 (2000) 「癌看護に携わる看護者のケアリングに関する研究」『日本がん看護学会誌』 14 (2) ,42-54.
- 重久加代子・渡辺孝子・兵頭明和 (2007) 「がん患者のケアを担う看護師のケアリング行動を測定する質問紙の開発」『がん看護』 12 (6) ,648-655.
- 重久加代子 (2011) 「がん看護に携わる看護師のケアリング行動を促進する要因の探索 - ケアリング行動 7 因子と関連要因の下位尺度の分析より」『看護展望』 36 (9) , 854-859.
- 加藤かおり・谷岡哲也・安原由子・宮川操・大坂京子・片岡睦子・飯藤大和・Locsin Rozzano (2017) 「看護におけるケアリングとしての技術力の認識尺度の開発」『四国医学雑誌』 73 (3・4) ,151-160.
- 筒井真優美 (1993) 「ケア / ケアリングの概念」『看護研究』 26 (1) ,10.
- 厚生労働省 (2016) 「保育所保育指針の改定に関する議論のとりまとめ」
(http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/1_9.pdf, 2018.4.8)
- 厚生労働省 (2017) 「保育所保育指針」
(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidou-kateikyoku/0000160000.pdf>, 2018.8.26)
- 文部科学省 (2007) 「学校教育法等の一部を改正する法律について (通知)」
(http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07081705.htm, 2018.8.26)
- 内閣府 (2014) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
(<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/seisyourei/h260430/c1-2-honbun.pdf>, 2018.8.26)
- 文部科学省 (2016) 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ (第 2 部) (幼児教育、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、学校段階間の接続)」
(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afile/ldfile/2016/09/09/1377021_1_2.pdf, 2018.8.26)

A Critical Review on development process of preschool and nursery teachers' caring scales

Yuko Inoue, Junichi Takahashi, Yasuhiro Kuroki and Kazuo Nakajima

In this study, we take up both domestic and foreign papers on the development process of preschool and nursery teachers' caring scales, and aimed to write critical review on them, especially from a statistical point of view. Web searches were conducted using 2 databases, "CiNii" and "ERIC". Finally, we paid attention to content validity and construct validity of the three preschool and nursery teachers' caring scales on scale development, and examined whether appropriate statistical methods were adopted or not. As a result, we could not find caring scale developed by statistically appropriate analysis methods. The above result suggests that we need to develop the preschool and nursery teachers' caring scale emphasizing the context of "qualities and abilities to be educated in early child-hood education" for preschool and nursery teachers.

Key words: preschool and nursery teachers, caring, scale, critical review, validity